

# ぼむ・ぼむ通信

No.66

生協の組合員と日本ユニセフ協会を結ぶネットワーク通信「ぼむぼむ通信」は、生協組合員のボランティアグループで発行・編集をしています。生協のユニセフ活動に積極的にご活用ください。



## 目次

エボラ出血熱緊急募金 .....	1
西アフリカ～感染拡大が続くエボラ出血熱～	
知っとこ。ユニセフ .....	3
ノーベル平和賞	
世界の子どもたちは今 .....	4
ノーベル平和賞	
生協のユニセフ支援活動 .....	5
鳥取県生協、いばらきコープ、秋田県生協連、みやぎ生協、山形県生協連	
トピックス	
* 報告書『2014年度版子どもの死亡における地域（開発レベル）別の傾向』発表 .....	7
* ユニセフカード事業に関する大切なお知らせ .....	8
* 第36回ユニセフハンド・イン・ハンド .....	9
* CO・OPコアノン・スマイルスクールプロジェクトの取り組みについて .....	10
* 東ティモールスタディツアー報告～日本生協連～ .....	11

## ぼむ・ぼむ通信 活用のすすめ

- すべてのページをコピーしなくても、「知っとこ。ユニセフ」や「世界の子どもたちは今」を集めて、資料としてご活用いただけます。
- ユニセフのつどいやユニセフ展、学習会の際に資料としてご活用いただけます。
- 店舗の募金箱の近くに置いて、生協のユニセフ活動を紹介する際にご活用いただけます。
- 生協の管理している文化センターなど、共用施設の雑誌コーナーなどにもご活用いただけます。
- 写真のコンテンツも充実しているので、カラーコピーでのご使用をおすすめします。



## エボラ出血熱緊急募金 西アフリカ ～感染拡大が続くエボラ出血熱～

### エボラ孤児となった子ども、3,700人以上



©UNICEF/NYHQ2014-1064/Dunlop  
防護服を着て、エボラ治療センターで患者に水を飲ませる保健員。(シエラレオネ)。

西アフリカ地域を中心に感染拡大が続くエボラ出血熱(以下、エボラ)。2014年11月14日時点では約14,000人の感染が確認されており、そのうち約5,000人が尊い命を奪われています。ユニセフはエボラの感染が確認されて以降、ギニア、リベリア、シエラレオネの3カ国で少なくとも3,700人の子どもたちが、エボラによって両親または一方の親を亡くしたとの推計を発表しました。エボラで親を失った子どもたちの多くは、感染を恐れる親族から引取りを拒否されています。

### ユニセフによる支援

ユニセフは各国政府やNGO、国連機関との協力の下、更なる感染拡大を防ぐため、ギニア、シエラレオネ、リベリアの3カ国で支援活動を行っています。また、今後の発生が想定される周辺諸国においても、予防啓発活動や発生を想定した準備を進めています。10月までに3,000トンの緊急支援物資(医療品・消毒剤・栄養不良の対策など)の空輸が行われました。その一環として、リベリアでは、50,000世帯にエボラの予防キットを配布しました。

#### 支援物資

治療に必要な医療品、隔離用テント、ベッド、マットレス、ビニールシートの提供。予防に必要な一体型の防護服、使い捨ての手袋、ゴーグルといった防護備品や、塩素、バケツ、石鹸などを治療センターや一時ケアセンター、病院、保健施設に配布。

#### 医療従事者への研修・育成

リベリア、シエラレオネ、ギニアにおいて専門スタッフの配置を実施。また宗教指導者への研修を通じて、地域住民と連携し、すべての村落にメッセージが届けられるよう啓発活動を実施。

#### 広報活動

WHOやパートナー、コミュニティとの協力の下、エボラの予防方法や、感染した人への接触に関する注意事項などをわかりやすく描いた啓発ポスター等を作成し、エボラに関する正しい知識や予防策を広める路上キャンペーンを強化。ラジオなどでも啓発メッセージを発信。

#### 子どもの保護

一時ケアセンターなどにいる子どものケアができるように、ソーシャル・ワーカーや心理療法士などに心のケアの研修を実施。このほか、エボラで孤児となった子どもの確認や家族とはぐれた子どもの発見など。



©UNICEF/NYHQ2014-1583/Bindra  
到着する支援物資。(シエラレオネ)



©UNICEF/NYHQ2014-1015/Jallanzo  
過疎地へ広報・啓発活動に向かうユニセフのスタッフ。(リベリア)



©UNICEF/NYHQ2014-0450/La Rose  
エボラの予防方法を伝えるユニセフのスタッフ。(ギニア)

## エボラ孤児となった 15 歳の少女

シエラレオネではエボラの感染が確認されて以降、多くの子どもたちが一方または両方の親をエボラで失っています。幼い弟と妹を抱える 15 歳のメアリーもその一人です。

「母は近所で具合が悪くなった女性の看病をした後、体調を崩しました。マラリアに感染したのだと思っていましたが、体調は急激に悪化しました。近所の人々が救急車を呼び、ケネマの公立病院に連れて行かれました。それが母を見た最後のときでした」と語るメアリーちゃん。



©UNICEF Sierra Leone/2014/Bindra  
15 歳のメアリーちゃんと弟妹

間もなく母親は死亡しました。しかし、病院が死亡の連絡をしたのは、それから約 1 カ月後でした。多くの子どもたちが親族などに引き取られていますが、メアリーちゃんの親戚の多くもエボラでなくなっていることから、近所の人たちの力を借りて生活をしています。

想像もしていなかった困難に直面しているにもかかわらず、メアリーちゃんは希望を抱き続けます。「まず、弟と妹の面倒をしっかりとりたいと思います。そして、人の役に立ちたいと思っています。私たちがエボラから生き延びたのは、理由があるはずです。だから、私たちは生き続けなければいけないと思っています」。

(参考資料: 日本ユニセフ協会ホームページ エボラ出血熱緊急募金 第 40 報、第 43 報、第 44 報)

## 現地で働く日本人ユニセフ職員からのメッセージ



ユニセフ・シエラレオネ事務所  
開発コミュニケーション専門官  
櫻井 有希子さん

この度は西アフリカにおけるエボラ出血熱対応への緊急募金のお願いに対し、日本ユニセフ協会を通して多くのご支援・ご協力を頂きありがとうございます。

シエラレオネでは、感染が拡大する地域での治療施設が足りず、政府や援助機関の努力にも関わらず、今も 1 日に 30 人以上の新規感染者が確認されています。

ユニセフ・シエラレオネ事務所は、約 3 万人の医療関係者やボランティアに研修を行い、エボラ出血熱の知識向上、予防方法の伝達、石けんの配布や手洗いの徹底を指導する戸別訪問キャンペーンを実施するなどの対応を行っています。

一方で、国内の多くの医療関係者がエボラ治療に追われているため、通常では助かる命が助からないこともあるのが現状です。今後も一人でも多くの命を救い、子どもたちが安全に暮らせるよう、皆様のご支援・ご協力をお願い致します。

ユニセフがエボラ出血熱対応のため国際社会に支援要請した金額は **2 億米ドル**(約 230 億円)。しかし、未だ **38%**にあたる**約 7,600 万米ドル**(約 87 億円)が不足しています。(2014 年 11 月 7 日時点。1 米ドル = 115 円で計算。)

## エボラ出血熱緊急募金

日本ユニセフ協会では、西アフリカを中心としたエボラ出血熱の流行によって  
厳しい状況下に置かれている子どもたちに対して、ユニセフが行う緊急支援のための  
**エボラ出血熱緊急募金**を受け付けています。あたたかいご支援をよろしくお願いいたします。

郵便局(ゆうちょ銀行)募金口座  
振替口座:00190-5-31000  
口座名義:公益財団法人 日本ユニセフ協会

\*通信欄に「**エボラ出血熱**」と明記願います。

\*窓口からのお振込の場合、送金手数料は免除されます。



# 知りたい? 知っここ。ユニセフ ノーベル平和賞

2014年 ノーベル平和賞 は **子どもの権利** に関係深い、この2人が受賞しました!



© UNICEF/NYHQ2010-1949/Berkwitz  
2010年、教育のためのグローバルキャンペーンで議長を務めた際のもの

## インド中央部の出身

技術者として働く一方、児童労働に反対する運動に身を投じる。脅迫にも屈せず、世界的な反児童労働運動「グローバルマーチ」の発起人でもあり、これまでに救った子どもは8万人と言われている。

この賞は  
すべてのインド人にとって誇りであり、  
声に耳を傾けてもらえない子どもたちの  
ためのものだ!

児童労働の子どもを救う  
**カイラシュ・サティヤルティさん**

## 【経済的搾取・有害な労働からの保護】

子どもは、無理やり働かせられたり、そのために教育を受けられなくなったり、心や身体に良くない仕事をさせられたりしないように守られる権利があります。

(子どもの権利条約第32条※2)

(子どもの権利条約カードブック※1より)



17歳での受賞は  
史上最年少!

## 【教育を受ける権利】

子どもには教育を受ける権利があります。国は、すべての子どもが小学校に行けるようにしなければなりません。さらに上の学校に進みたいときは、みんなにそのチャンスが与えられなければなりません。学校の決まりは、人は誰でも人間として大切にされる、という考え方から、外れるものであってはなりません。

(子どもの権利条約第28条※2)

(子どもの権利条約カードブック※1より)



© UNICEF/NYHQ2013-0746/Markisz  
2013年、国連で演説した際のもの

本とペンを手に取ろう!  
それこそが最強の武器!  
教育こそが唯一の解決策!

女子教育の大切さを訴える  
**マララ・ユスフザイさん**

## パキスタン生まれ

11歳の頃から、イスラム過激派の支配下にあった学校の様子を、ブログで告発し、15歳のときに銃撃され、重傷を負った。英国の病院で治療した後、同国で暮らす。2013年、国連本部で教育の重要性を演説する。

すべての子どもに教育を受ける権利や、力や搾取、虐待に脅かされることなく生活する権利、また、子どもたちの声に耳を傾けられる権利があることを受け、今回の授与を決定したことを歓迎します。(ユニセフ・アンソニーレーク事務局長)

※1 日本ユニセフ協会発行「子どもの権利条約カードブック」: [http://www.unicef.or.jp/osirase/back2009/0911\\_05.htm](http://www.unicef.or.jp/osirase/back2009/0911_05.htm)

※2 「子どもの権利条約」: [http://www.unicef.or.jp/about\\_unicef/about\\_rig\\_all.html](http://www.unicef.or.jp/about_unicef/about_rig_all.html)





# 世界の子どもたちは今

17歳の  
マララさん

ノーベル平和賞



2014年の【ノーベル平和賞】は、子どもの『教育を受ける権利』のために闘っている、パキスタンの【マララ・ユスフザイ】さんと、インドの【カイラシュ・サティヤルティ】さんの二人が選ばれました。

過激派の勢力下にあるパキスタン北部山岳地帯では



1

女子教育の大切さを訴え続ける

★11歳の時、ブログで故郷の現状を告発

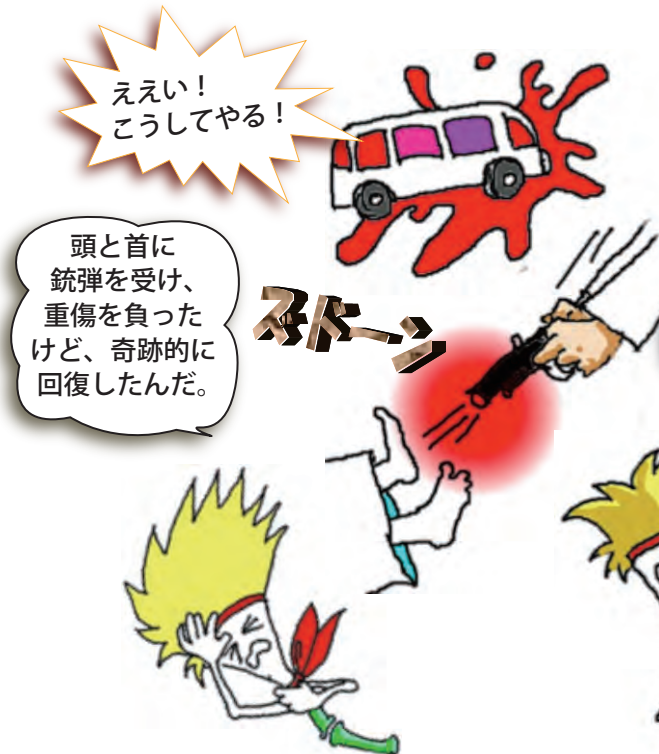
200以上の女子学校が  
爆破されました。



2

マララを狙ったテロ事件は世界中に衝撃を与える

★15歳の時スクールバスで下校途中、銃撃される！



3

世界を動かしたマララの言葉



一冊の本、  
一本のペンが  
世界を変えることができます。※



世界には学校へ行けない子どもが5,700万人もいるんだ。マララもユニセフも、すべての子どもたちが学校へ行けるようにがんばっているんだよ。

※国連での演説より

## 生協のユニセフ支援活動 Partnership



### 「ユニセフ学習会」を開催（鳥取県生協）

鳥取県生協は、9月20日に、倉吉市で「ユニセフ学習会」を開催しました。学習会では、ファシリテーターの小松亜希恵さんによる「世界がもし100人の村だったら」のワークショップを行いました。参加者25人で世界の多様性を学び、読み書きができない人の気持ちを体験したり、世界の所得配分の不均衡をフェアトレードチョコレートで体感するなどしました。最後に「今、私たちにできること」をテーマに話し合いました。



「世界がもし100人の村だったら」のワークショップ



### ユニセフ学習会「アフリカ・シエラレオネの子どもたちを笑顔に！」を開催（いばらきコープ）

いばらきコープは、9月22日にユニセフ学習会「アフリカ・シエラレオネの子どもたちを笑顔に！」を開催し、20人が参加しました。学習会では、4月にハッピーミルクプロジェクト・シエラレオネの支援先であるシエラレオネ共和国を視察訪問したコープネット政策推進室の鷹島満美子さんから、乳児死亡率が世界で最も高いシエラレオネの状況や現地でのユニセフの支援について報告がありました。

このほか、このプロジェクトの対象商品である牛乳を使ってカッテージチーズを作りました。



コープネット政策推進室の鷹島満美子さんによるスライドツアー報告

コープネット事業連合では、キャンペーン期間中に、CO・OPマークの牛乳1本をお買い上げいただくごとに1円をユニセフに募金し、アフリカ・シエラレオネ共和国の子どもたちに対する栄養プログラムを支援しています。



### 「ユニセフ ハンド・イン・ハンド街頭募金」を開催（秋田県生協連）

秋田県生協連は、9月27日に秋田駅でユニセフハンド・イン・ハンド街頭募金を開催しました。県内の会員生協から14人の組合員、職員が集まり、駅構内を行き交う人たちに生協名が入った色とりどりの風船やペンを手渡ししながら、大きな声で協力を呼びかけました。

1時間半という短い活動時間でしたが、大学生や組合員の子どもたちも参加し、アットホームな雰囲気募金活動をおこない、43,154円の募金が寄せられました。



子どもたちも募金を呼びかけました





## 商品を買って応援「ユニセフ募金応援キャンペーン」を実施（みやぎ生協）

みやぎ生協の店舗では、多くの取引先や組合員の協力により 1997 年から「ユニセフ募金応援キャンペーン」を実施しています。毎年 2 期間で実施するこのキャンペーンでは、対象商品の購入金額の一部がユニセフへ寄付され、世界の子どもたちのいのちを守る支援活動に役立てられます。

10 月 16 日から 11 月 12 日には、キャンペーンの 2014 年度第 1 期が実施されました。協力企業 46 社により 84 品目がキャンペーン対象となり、計 518,366 円の協力がありました。



今年で 17 年目をむかえる  
「ユニセフ募金応援キャンペーン」



## 「2014 ユニセフやまがたのつどい」を開催（山形県生協連）

山形県生協連は10月29日に「2014ユニセフやまがたのつどい」を開催し、県内各地から62人が参加しました。

このつどいは、ユニセフへの理解と関心を高め楽しく交流しようと毎年開催されています。

前半は、2014年度から北海道や東北、九州などの生協が「東ティモール指定募金」に取り組むにあたり、山形県生協連から東ティモールの国情やユニセフの活動内容について報告がありました。

後半は、ドキュメンタリー映画「カンタ！ティモール」を上映しました。美しい風景、自然や助け合いを大切にする優しく楽しい人々、子どもたちの輝く笑顔とともに、インドネシアからの独立闘争で人口の3分の1を失った凄惨な状況を描くこの作品に、参加者は心を打たれました。



県内各地から 62 人が参加しました

会場では、このほか小林紀晴写真展「アジアで一番若い国 東ティモールの子どもたち 2008～2012」や、ユニセフ宮城県支部によるユニセフグッズ販売なども行われました。





## 報告書

<http://www.unicef.or.jp/news/2014/0069.html>

## 『2014 年度版 子どもの死亡における地域（開発レベル）別の傾向』発表

## 5歳未満で亡くなった子どもたちは630万人

## 2012年に比べると約20万人減少

国連が2014年9月16日に発表した新たな統計では、2013年5歳未満で死亡した子どもは630万人で、2012年と比べると約20万人減少したことを示しています

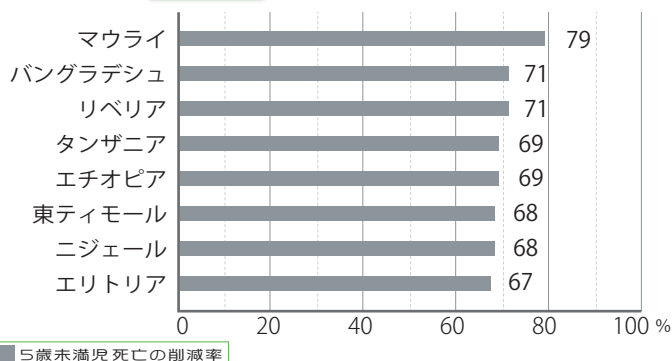
『2014 年度版 子どもの死亡における地域（開発レベル）別の傾向』表紙

## 60か国中、8か国が目標達成

1年あたりの削減に目を向けると、その状況は加速しており、2015年までに1990年を基準とした5歳未満児死亡率を3分の2削減するという目標（国連ミレニアム開発目標④※）を実現した国は、8か国ありました。

出生1,000人あたりの5歳未満の死亡数が40人以上で、5歳未満児死亡率が高いとされる60か国中、マウライ、バングラデシュ、リベリア、タンザニア、エチオピア、東ティモール、ニジェール、エリトリアの8か国が、死亡率を3分の2以上、削減しています。

1年あたりの  
削減率は上方加速！

5歳未満児死亡率を  
3分の2以上削減した国

※ミレニアム開発目標  
[http://www.unicef.or.jp/about\\_unicef/about\\_mill.html](http://www.unicef.or.jp/about_unicef/about_mill.html)



© UNICEF/NYHQ2008-1649/Pirozzi  
栄養状態の検査をする赤ちゃん  
(エリトリア)

## 改善は感染症に対する取り組みによって実現された

報告書では、子どもの生存における主な改善は、予防接種や殺虫処理済みの蚊帳、下痢への保水治療、栄養補助食品や栄養治療食といった主要な感染症に対する、手ごろかつ実証済の取り組みによって実現されたと述べられています。新生児死亡の主な原因には、早産による合併症や、分娩や出産時のトラブルがあげられ、妊産婦の健康を守ることと密接に関係した取り組みが求められています。

目標の達成が難しいとされている国連ミレニアム開発目標④※ですが、妊産婦、新生児、子どもの予防可能な死を限りなく、なくしていこうとする取り組みが、子どもたちの笑顔に繋がることを信じています。



## ユニセフカード事業に関する大切なお知らせ



[https://www2.unicef.or.jp/card/popup/140901\\_info.html](https://www2.unicef.or.jp/card/popup/140901_info.html)

日本ユニセフ協会を通じた申し込みの受付は  
12月25日協会到着分をもって終了となります。

### ●2015年からは・・・

これまでユニセフは、募金事業の一環としてカードやグッズを直接扱っておりましたが、さらなる効率化を図るため、2015年からは、ユニセフが承認した企業が、ユニセフ・ロゴマークの付いたカードやグッズの製造・販売を行い、その売り上げの一部を子どもたちのための活動資金としてユニセフに送金する方式に移行することになりました。

これに伴い、日本ユニセフ協会を通じたユニセフカードやグッズの頒布、申し込みの受付は、本年末（2014年12月25日協会到着分）をもって終了となります。

日本におけるユニセフカードについては、  
(株)日本ホールマークが、2015年秋から製造・販売を行います。

日本におけるユニセフカードについては、(株)日本ホールマークが2015年秋から製造・販売を行います。グッズについては未定ですが、支援者のみなさまには、どのようなユニセフカードやグッズがあり、どのようにお求めいただけるかについて、来年以降に、日本ユニセフ協会からお知らせがあります。

### ●ご愛用いただいたみなさまへ・・・

これからもご愛用  
よろしくお願いします！

「手から手へ、世界の子どもたちの幸せを願う思いを広げ、世界の子どもたちのために貢献する」というユニセフカードやグッズの使命は変わりませんので、これからもご愛用、よろしくお願いします。

ユニセフの支援に感謝して描かれた  
旧チェコスロバキアの少女 **イトカちゃん** の絵  
この絵は、ユニセフカード第1号となった。



(C) Jitka Samkova-Vejdova

今後もユニセフカードにおけるユニセフのロゴや書式的大幅な変更はありません。

(参考資料：ユニセフ・ニュース Vol.243)

# 「第36回 ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金」

## 2014年テーマ：「誰もが大切な“いのち”」

### 予防できる病気で“いのち”を失う子どもたち

世界では、年間 630 万人の乳幼児が、肺炎や下痢、マラリアで命を落としています。これらの病気は、日本を含む先進国では予防や治療が可能なものなのです。命を落とす3大要因は…



### 幼児死亡3大要因 (毎年)

▶肺炎  
110万人

▶下痢  
58万人

▶マラリア  
45万人

### “いのち”を守る方法にであうことなく…

こうした子どもたちの多くは、開発から取り残された国や僻地に暮らしています。支援の手がきわめて届きにくい場所で、人知れず命を落としているのです。

予防接種を受けていたら… 経口補水塩を摂ることができていたら… “失われずにすんだ” はずです。

予防可能な病気で子どもたちが  
命を落とすことのない世界を  
実現しよう！

◆100円で…  
経口補水塩 12袋分

◆1000円で…  
蚊帳 3帳

◆3000円で…  
3種混合ワクチン 214人分  
(ジフテリア、百日咳、破傷風)

### 一人の子どもも取り残さない！

一人ひとりの命は等しく大切なもの。誰もが大切な“いのち”。すべての子どもたちが等しく支援をうける権利があります。

ユニセフは今年のハンド・イン・ハンドで、すべての子どもたちに予防接種、安全な水、医療品などの支援を届け、予防可能な病気で子どもたちが命を落とすことのない世界を実現するために、みんなと手と手をつなぐキャンペーンを行います。

## ハンド・イン・ハンド募金とは

HandinHand



1979年の国際児童年に誕生した、文字通り“手に手をとって”一人ひとりがボランティアとして参加するユニセフ募金活動です。  
事前に登録をすれば、誰もがユニセフボランティアとして参加できます。

毎年11月～12月を、ハンド・イン・ハンド募金月間とし、ボランティアの方々に街頭やイベント、職場や学校でこの活動に参加していただき、昨年は全国で**1,246**の団体・個人・学校・企業などから合計 **4,776万 1,637円**の募金が寄せられました。

ボランティア一人ひとりの想いを、世界の子どもたちへ届けてきたこの募金活動も、今年で36回目になります。今年も、ユニセフ活動に賛同された多くの方々に、ハンド・イン・ハンドに参加していただき感謝しています。



生協店舗や街頭で募金箱を見かけたら、ご協力ください。



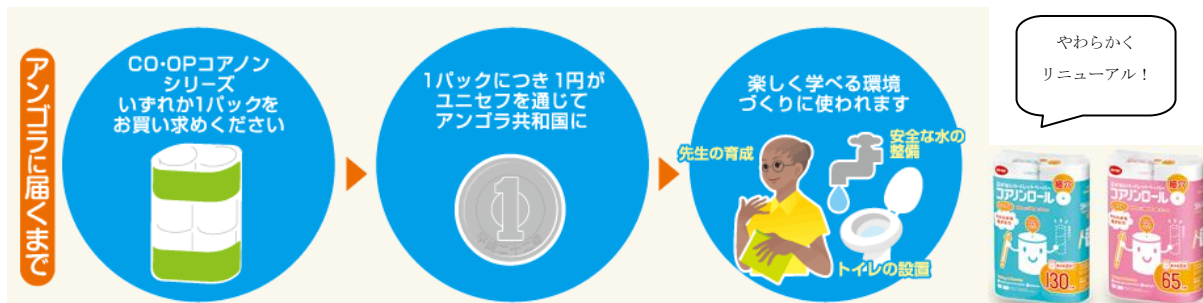


## CO・OPコアノン スマイルスクールプロジェクトの取り組みについて



### プロジェクト第5期が、2014年11月1日にスタートしました！

「CO・OPコアノンスマイルスクールプロジェクト」では、CO・OPコアノンロール（トイレットペーパー）1パックにつき1円を募金として積み立て、ユニセフによるアンゴラ共和国の“子どもにやさしい学校づくり”を支援しています。2010年にスタートしたこのプロジェクトは、2014年11月1日から、第5期が始まりました。今期も引き続き、温かいご支援をよろしくお願いします。《期間：2014年11月1日～2015年10月31日》



### 第4期の募金額をご報告します！

プロジェクト第4期が、2014年10月31日で終了しました。

皆様のご支援で集まった最終的な募金額は、**1,149万4,754円**となりました。

また、第1期から第4期（2010年11月1日～2014年10月31日）の募金合計額は、**4,145万8,862円**となりました。

この募金は、すべて日本ユニセフ協会に送金され、アンゴラの子どもたちの教育環境改善のために活用されます。

ご協力に、心より感謝いたします。ありがとうございました。

プロジェクトの詳細は、日本生協連ユニセフサイトをご覧ください。  
<http://jccu.coop/unicef/smileschool/index.html>

## 東ティモール・スタディツアー報告 ～日本生協連～

東北及び九州・沖縄の一部の生協は、2014 年度から東ティモールへのユニセフ指定募金に取り組んでいます。2014 年 10 月 26 日から 11 月 2 日にかけて、東ティモールへのスタディツアーを実施しました。その概要を報告します。

### 1．日 程

2014 年 10 月 26 日から 11 月 2 日

### 2．参加者

東北の生協の代表及び全国の県ユニセフ協会などから 12 人

### 3．主な視察先とユニセフ活動の概要

東北及び九州・沖縄の生協は、2014 年度から東ティモールへのユニセフ指定募金に取り組んでいます。この募金は、2015 年度から「東ティモールにおける新生児と母親のためのコミュニティケアの改善」プロジェクトのために使われます。今回は、支援先である母親支援グループやコミュニティ保健センターなどを訪問しました。



地図資料：ユニセフ・東ティモール事務所提供

#### (1) ユニセフ・東ティモール事務所 <10/27(月)>

視察のご挨拶と、東ティモールの概要について大まかなブリーフィングを受けるため、現地事務所を訪問しました。対応してくださったのは副代表のレネ・バン・ドンゲン氏で、5 歳未満児死亡率は改善傾向にあるものの、都市と地方とで格差があることや、子どもの初等教育の充実と普及の重要性などについてレクチャーを受けました。

基礎情報をインプット！明日からの視察が楽しみです。



( 2 )【支援先】アイナロ県ハトブリコのコミュニティ保健センター<10/28 ( 火 ) >



コンクリートの平屋の建て作りで、ベンチがある外の待合所、処方箋室兼薬の保管室、歯科治療室、妊産婦の診察室などがあり、分娩室は一般診察兼事務所で共用の一室となっていました。この地域では自宅出産が多いとのことですが、自宅は衛生状態がよくないため、このような施設での分娩が推奨されて

います。しかし、この施設にも分娩専用の部屋はなく、また、電気がないため夜はろうそくの灯りで出産することもあるとのこと、全体に設備不足の印象でした。

このセンターでは、ユニセフのサポートで母子手帳（子ども一人につき一冊）が支給されていました。これはインドネシアから学んだもので、元は日本のものを参考に作られているそうです。

( 3 )【支援先】アイナロ県ハトブリコの母親支援グループ<10/28 ( 火 ) >

この地域では、2012 年 10 月から母親支援グループの活動が始まりました。活動は週に 1~2 回程度で、地域のボランティアによって運営されています。出産に関する啓発の結果、安全な出産のため、出産時に妊婦を夫がハトブリコ地域の保健センターへ連れていく、など良い事例も見られるようになりました。母親が情報を得ることにより、



この2年間の活動で5歳未満児の健康に関する状況は大変良くなったとのことでした。

視察当日は村の1カ所に多くの母親・子どもを集め、ビデオと資料を使い離乳食の作り方等を教えていました。この日もお母さんたちが話を聞いている周りでは、兄や姉が多くの兄弟たちの世話をしていました。「5人の子どもに恵まれたけれど、全員を5カ月で亡くしてしまった。6人目を産んでから母親支援グループから指導を受け、その子どもは現在2歳になり、すくすくと育っている」と感謝するお母さんもいるというお話も伺いました。



(4)【支援先】エルメラ県グレノのコミュニティ保健センター<10/28(火)>

この保健センターには、診察するところ、入院するところ、母子関係の3つの建物があります。近くに大きな病院がなく、その意味でも、重要な医療施設です。この施設をユニセフは栄養に関して支援しています。



母子のための建物には妊婦の診療室がありました。妊婦の診療のためと言っても、エコーなどの機械はありませんでした。ここではファミリープランニングに力を入れており、そのための専用の部屋がありました。「ファミリープランニングをすることは、おかあさんにも、子どもにも良いことである」と伝えているそうです。以前は10人以上出産する女性が珍しくなかったが、指導を進めてきた結果、現在は一人の女性が出産する子どもの数が5~6人になってきた、とのことでした。

#### 4. 参加者の感想

- ・東ティモールは本当に若い国だと感じました。2002年に独立するまで紛争により子どもの権利が迫害されたのだと思います。病院や学校などの施設も利用できなかったことでしょう。首都と山岳地域のあまりの差に正直びっくりしましたが、どの地域でも出会った子どもの笑顔に救われました。
- ・来る前はもっとひどい状態を想像していました。病院や保健センターは基本的には機能しているし、住人も病気予防やケアの必要性を理解しつつあります。子どもたちも元気で明るく勉学に励んでいました。もちろん先進国のように完全ではありませんが、ユニセフの支援は有効に利用されていることを実感し、現地の人々が望んでいることも理解できました。

## ぼむ・ぼむ広場

### 編集後記

私がユニセフ募金を始めたのは子どもが生まれてからでした。この子が元気に育つように、知らないどこかで困っている子にも元気になってほしいという気持ちで始めたのです、と言ってもほんとわずかな金額でしたが毎月振り込んでいました。ユニセフカードとギフトがあることを知り、はじめはカタログでの購入でしたが、次第に商品を直接見て買いたいと思うようになりました。30数年前は銀座のヤマハビルの1階にユニセフのコーナーがありガラスケース1つか2つに商品が並んでいたと思います。ユニセフハウスができて綺麗な建物中にたくさん並べられているのを見るのが楽しみでカードとギフトだけを買いに行ったこともありました。

ユニセフによるオリジナルのカードやグッズの製作・頒布は今年の12月で終了しますが、来年から新しく始まるユニセフカードがどのようなものになるのか楽しみにしています。

ボランティアを始めた頃、イベントなどでカードとギフトを皆さんとどうしたら手にとってもらえるかを考えたり、並べ方を工夫したりしていたのを懐かしく感じます。(T)

ユニセフ＊コープネットワーク

**ぼむ・ぼむ通信**

No.66 2014年12月15日発行

編集 **グループ ぼむ・ぼむ**

スタッフ・編集 / 蛸沢・小池・武田・立川・土橋・  
浜崎・松本・山本・石尾・中村・  
櫻井・阿久根

発行 日本生協連 組合員活動部

〒150-8913

東京都渋谷区渋谷3-29-8 コープラザ 11F

TEL03-5778-8124 FAX03-5778-8125

ホームページ <http://jccu.coop/unicef/>

次号は、2015年3月16日に発行予定です。

### ぼむ・ぼむ通信・ひとことカード

今回の「ぼむ・ぼむ通信」はいかがでしたか？ご感想やご意見・ご要望をお寄せください。  
次号以降の参考にさせていただきます。

生協名：\_\_\_\_\_

氏名（ペンネーム可）：\_\_\_\_\_ 《 組合員・役職員・その他 》

ご協力ありがとうございました！下記の宛先までお送りください。

宛先：日本生協連 組合員活動部 F A X : 03-5778-8125 MAIL : kumikatsu@jccu.coop